

一般社団法人日本神経精神薬理学会 第 83 回拡大理事会（2024 年度） 議事録

日時：2023 年 9 月 6 日（水）15：00～17：40

場所：東京ドームホテルおよび Zoom を用いた遠隔会議

出席者（理事長）：岩田仲生

出席者（理事）：新田淳美、吾郷由希夫、池田和隆、糸川昌成、井上猛、加藤忠史、高橋良輔、高橋英彦、
中込和幸、成田年、橋本亮太、古屋敷智之、山田清文、渡邊衡一郎

出席者（監事）：曾良一郎

出席者（委員長）：北市清幸、宮川剛、森尾保徳

欠席者（理事）：岩本和也、南雅文

欠席者（監事）：小泉修一

欠席者（委員長）：伊賀淳一、内田裕之、服部信孝

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

前回（第 82 回）理事会議事録および持回り理事会議決事項の確認がなされた。

I. 審議事項

1. 新入会希望者承認について

北市総務委員長より 2023 年 8 月 18 日～9 月 4 日までの 15 名の入会申込があったことが報告され、全員が承認された。

2. 名誉功労会員推戴について

北市総務委員長より推戴希望者（名誉会員 3 名、功労会員 10 名）の提示があり、承認された。

3. 評議員推薦について

北市総務委員長より評議員就任推薦（12 名）の提示があり、承認された。

4. 休会制度の新設について

北市総務委員長より休会制度の新設案が提示され、承認された。

II. 報告事項

1. 各委員会報告

a. 執行委員会（岩田委員長）

・活動報告がなされた。

b. 総務委員会（北市委員長）

・2023 年 6 月 1 日～2023 年 8 月 31 日までの会員動向について以下の通り報告された。

会員数 1,924 名（2023 年 8 月 31 日 現在）

名誉会員 33 名

功労会員 61 名

評議員 310 名

一般会員 1,366 名

学生会員 143 名

法人会員 11 社

※新入会 67 名、退会 9 名

- ・海外在住者や会員の利便性を考慮し、2024 年度より学会年会費支払い方法に、クレジット決済を導入する旨、報告があり、承認された。決済会社は、会員管理システムと連動をさせる必要があるため、「SMBC GMO PAYMENT」に委託を行う。従来の郵便振替での支払いも可能ではあるが、払込票は全会員へは郵送せず、5月までに未納の会員へ郵送する。
- ・「日病薬病院薬学認定薬剤師制度 研修会実施機関」の更新対象団体のため、更新手続きを期日までに行う。
→9月9日に申請済みである。

c. 財務委員会（池田委員長）

- ・企画・研究・将来構想委員会追加予算の審議中である。
→9月8日の財務委員会にて承認された。

d. 倫理委員会（加藤委員長）

- ・活動報告がなされた。

e. 編集委員会（宮川委員長）

- ・2023 年 7 月 3 日に Clarivate 社より Impact Factor が発表され、NPPR は 2.5 を獲得し、投稿数が増えることを見越し、Associate Editor の増員を検討している。新 Associate Editor 3 名が承認された（新田淳美先生（富山大学；JSNP 副理事長）、堀江義則先生（医療法人社団慶洋会ケイアイクリニック；JMSAAS 理事長）高野歩先生（NCNP；JMSAAS 編集委員長））。
- ・ワイリー社より APC の値上げを打診され、検討中である。
- ・セクション制導入により、該当カテゴリーの懸念から投稿を躊躇される方もいらっしゃるため、カテゴリー変更を行う。
- ・下記の通り、NPPR セミナーおよびフェアウェルパーティーを開催予定であり、招聘者には NPPR に総説をご投稿いただく。
 - ①第 97 回日本薬理学会年会（12 月）CINP/JSNP/JSCNP/NPPR/JPS 合同シンポジウム
「うつ病研究最前線 ～モデルマウス、マーカー、診断、治療～」
オーガナイザー：新田淳美先生（富山大学）、招聘者：Tianmei Si 先生（Peking University）
（英文）
CINP/JSNP/JSCNP/NPPR/JPS Joint Symposium
“Top research of depression - animal models, diagnostic markers, guideline, treatment) ”
 - ②CINP2024（2024 年 5 月）
招聘者：Anthony Grace 先生（International Journal of Neuropsychopharmacology の編集長；University of University Pittsburgh）、
Kim Q. Do 先生（Lausanne University Hospital (CHUV) and University of Lausanne）
フェアウェルパーティー：2024 年 5 月 26 日夕方（時間的には上記の NPPR セミナーの直後）。NPPR の紹介と NPPR 賞も授賞式も行う。

f. 国際学術委員会（新田委員長）

- ・第 53 回年会にて TSBPN から選出された 2 名に若手研究者からの受賞講演を実施する。
TSBPN-JSNP academic exchange award（9 月 9 日 11：20-12：10）
座長：笠井慎也委員、演者：Kun-Chia Chang（Department of General Psychiatry, Jianan Psychiatric Center, Ministry of Health and Welfare, Tainan, Taiwan）

Po-Han Chou (Department of Psychiatry, China Medical University Hsinchu Hospital, China Medical University, Hsinchu, Taiwan. / Department of Psychiatry, China Medical University Hospital, China Medical University, Taichung, Taiwan)

g. 広報委員会（古屋敷委員長）

・HPの更新やメール配信（2023年6月15日～2023年8月31日：12通）を行った。

h. 企画・研究・将来構想委員会（高橋英彦委員長、成田委員長）

・53周年会のシンポジウムの一部を会員限定にてオンデマンド配信を行う。今後は有料化も検討する。

・「研究活動推進のためのドライ解析研究の推奨」をテーマ（予定）に先端研究推進基盤オンライン講演会を企画している。

i. 学術賞選考委員会（糸川委員長）

・2024年度学術奨励賞が募集中である。

j. トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会（森尾委員長）

・評価バリエーション軽減の検討をしている。

・製薬会社からのコンサルテーション依頼はなかった。

k. 薬事委員会（渡邊委員長）

・ガイドライン転載許諾申請8件（2023年6月15日～8月31日）を承認した。

・炭酸リチウムについて、日本うつ病学会と日本臨床精神神経薬理学会、本学会の3学会合同にて厚労省に安定供給を求める要望書を提出予定である。

→9月19日に提出した。

l. COI委員会（岩本委員長、代理：岩田理事長）

・役員のコイ自己申告書の提出依頼がされた。

m. EGUIDE委員会（橋本委員長）

・2023年度講習では、対面とオンラインにて統合失調症のガイドラインとうつ病のガイドラインの講習をそれぞれ11回行い、延べ500名が参加予定である。

・各学会でガイドラインの普及に関するシンポジウムやワークショップを企画している。

・統合失調症薬物治療ガイドやうつ病治療ガイドを用いた当事者・家族用の講習を作成した。

n. 診療ガイドライン委員会（橋本委員長）

本学会単独作成ではなく、他学会と連携・協力しながら、診療ガイドライン全般についての作成・普及・改訂を引き続き行う。

ア. 統合失調症診療ガイドライン委員会（橋本委員長）

・統合失調症薬物治療ガイドライン2022の英語版の作成を進めており、NPPRへ年度内に公開予定である。

・2023年2月に公開した統合失調症薬物治療ガイド2022—当事者と支援者のために—の書籍化中であり、最終段階まで進んでいる。当事者や支援者にご活用をいただきたいため、学会への印税は受け取らないことが承認された。

・統合失調症診療ガイドラインを関連学会と合同で作成することを目的に、統合失調症診療ガイドライン作成準備ワーキンググループを精神神経学会、臨床精神神経薬理学会、統合失調症学会、本学会の4学会に

て学会横断的に発足する予定である。

イ. 不安症・強迫症診療ガイドラインタスクフォース（井上委員長）

- ・第 119 回日本精神神経学会にてシンポジウム「不安症、強迫症の診療ガイドラインと臨床的実践」を開催した。
- ・パニック症診療ガイドラインの原案は 6 月に完成し、現在委員会で審議中である。
- ・強迫症、パニック症のガイドライン発表を促進するために、MINDS の登録を目指さずガイドラインを完成することを不安症・強迫症治療ガイドライン合同作成委員会で決定し、理事会でも承認を得た。
- ・全般不安症の臨床試験が 2 件行われており、今後全般不安症の適応が承認される薬が登場する場合には、全般不安症の診療ガイドライン作成を予定したい。

ウ. 遅発性ジスキネジア診療ガイドラインタスクフォース（曽良委員長）

- ・脳神経内科と精神科の両診療科から構成され、章立てとして病態機序、鑑別診断等は脳神経内科、薬物療法等については精神科が主に担当して作成を始めている。初稿ができた段階で両診療科が合同で検討して作成を行う予定である。TD の新しい治療薬として認可された VMAT2 阻害薬については治療各論において作用機序、副作用等を詳しく記載する方針とした。

オ. 専門医制度委員会（伊賀委員長）

- ・過渡的措置として、本学会員は取得しやすい条件を設定しているため、多くの方に専門医を目指していただきたい。

ピ. Nomenclature Working Group（内田委員長、代理：岩田理事長）

- ・6 月 23 日にオンライン形式にて開催された Neuroscience-based Nomenclature (NbN) タスクフォース会議に参加し、累計 10 万ダウンロードの達成、NbN-3 改訂の検討、主要国の精神科学会の推奨を得るための手段について討議したことが、報告された。今後、これまでの成果を日本国内・アジア諸国に還元する方法につき検討している。

ク. 会員交流促進タスクフォース（宮川委員長）

- ・日本語でも SNS に NPPR 投稿に関するツイートを行っている。

2. 年会報告

a. 第 53 回年会（服部年会長、代理：成田先生、加藤先生）

- ・事前参加登録 550 名程度となり、プログラムは下記にて予定通り開催する。
特別講演 1、プレナリーレクチャー 2（海外演者 2 名来日）、特別シンポジウム 1、シンポジウム 28、ワークショップ 2、共催セミナー 23、第 12 回学会奨励賞受賞講演 1、TSBPN-JSNP academic exchange award 1（台湾から 2 名来日）、全員懇親会 1、一般演題 登録 145 演題 / 発表（ポスター発表形式） 144 演題
市民公開講座「良眠を得るための科学的アプローチ」

b. 第 54 回年会（新田年会長）

会期：2024 年 5 月 24 日（金）～26 日（日） ※CINP2024 は、23 日午後より。

場所：東京国際フォーラム

テーマ：ウェルビーイングを目指した神経精神薬理学-関わる全ての人々がこころを合わせる時-

開催形式：日本臨床精神神経薬理学会（渡邊衡一郎 年会長）と合同、CINP（池田和隆 年会長）と同時開催。

言語：日本語

収支：3学会合同

c. 第55回年会（橋本年会長）

・年会運営事務局を選定中である。

Ⅲ. その他

1. 日本学術会議、日本脳科学関連学会連合について

日本学術会議、日本脳科学関連学会連合の活動状況が報告された。

以上